

告があり、参加者のHAT、Jへの協力要請があった。続いて昼食となり、その後最後のセッションVIとして、「ワールド・カップの現状」ということでUIAA岩登り委員会のマルコ・スコラエス氏より報告があった。

以上で予定された日程は全て終了となった。当初予定されていたソ連の登山家の話は聞けなかったのであるが、それでも毎度の如く収穫の多い会議であった。以上簡略であり、遅くなりましたが報告とします。

日山協指導委員会 総会にて

田中栄弘

平成3年6月2日(日)東京岸記念体育館に於いて、全国より約38名出席され開催されました。齊藤一男日山協会長の挨拶に始まり、大曾根指導委員長の司会で指導員の教育と研修の平成2年度の報告、登攀技術、東地区北海道小樽赤岩山岩場での下降技術、制動確保の事と又冬でも登攀訓練出来ることの話、西地区山口県陶ヶ岳岩場では高体連関係

者も出席があり岩登りのレベルが低いと話あり、氷雪技術研修は登山月報に記載されておる様に3月15日～17日、富士山で研修班一班と、講習班二班に別けて、登攀用具、確保技術、滑落停止、荷物を背負ったの Каттингを重点に置き研修の成果が上りました。又3年度の計画、登攀技術東地区は次城の御岩山岩場に9月14日～16日に決定し、西地区は愛媛岳連担当、氷雪技術は平成4年3月20～22日に富士山で行なわれます。是非各協会岳連より参加してレベルアップ、技術、検定の糧にしたい。続いて地域スポーツ指導者について、平成2年5月21日に認可され、新潟県では全国に先がけて実施されましたが、受検者が多い為、平成3年度に実施する県、8月に20名限定で実施する県、今年中にすこしでもなんとか目鼻を付けたい県とかいろいろで、全国的に見ますと今年中には行動を起こすみたいです。競技力向上指導者に付いては、日山協より六月3日に日体協へ再提出して文部省より認可を受ける様に努力することです。二種指導員検定の提出

書式に付いては山歴の記入の不備が多いので注意する様。特に年月日(日程)及びルートを必ず記入。例、1989年12月30日～1990年1月5日、鹿島槍ヶ岳、東尾根より頂上往復、1990年8月2日～8月6日、北穂高岳、滝谷合合より第四尾根～ドーム西壁、又積雪期の山歴に付いては12月～3月迄を原則とし、夏(無雪期)7年(70日以上)、冬(積雪期)5年(50日以上)。右記の記入を厳守して確認をし提出して下さいとの連絡あり。検定の件で神奈川岳連より実施説明があり、その内容はまず2年で指導員になる様に養成講座に入

り、その内容はまず2年で指導員になる様に養成講座に入って、仲間意識を持って、1年で基本を、2年目で応用をカリキュラムに則って2ヶ月に1回の山行と勉強会があり、まず山歴表をチェックし、模擬試験があり、学科試験、登山訓練所の勉強机上実技、冬山(富士山)で行う。試験日数は夏山岩登りで4日、学科で1日、冬山で3日かけて行う。点数の方も日山協では3科目で200点以上で合格であります。220点以上なければだめ。本人の為にも厳しくしておるとの事。京都では二種受検者は赤岳の天狗尾根、地、ロアミダ南稜で実施と話がありました。又、一泊はビバークを入れて検定している岳連もありました。お昼休み時間にワールドカップ岩登り競技会の日本の平山選手、メスナー氏のルート女選手、指示等のビデオを見て大変参考になりました。午後、遭対特別事業の書類を提出して予算をもらって下さい、昨年度使用しなかった予算を日本体育協会に返金しておりますので必ず講習会、研修会の報告を出して還付を受けて下さい。

指導員制度、教程の見直し、検査員制度(全国共通の検定員、検定員のレベルの統一、検定内容の統一)、中高年登山者の対策(普及と啓蒙)近々文部省のテキストが出ます。指導カリキュラム、指導者の養成と拡充、モラル、事故防止)、スポーツクライミングが日本でワールドカップ大会が実施されるに当り、日山協でも取り組んで行く件等のお話や、いろいろの事業、計画、山行、教育等の質疑、対策、指導、報告等あり有意

義で勉強になり4時半すぎに閉会になりました。
(追)指導委員会長期事業計画案の八項目の内の一つを各岳連、協会に担当してもらいたいとの要請連絡がありました。

日山協海外委員会 湯沢会議

(懇談会)報告

海外登山委員会
東 樹 義 夫

4月20日～21日、スポーツメント湯沢2で、海外委員会懇談会ということでしたが、ジャンルにとらわれず、13名の方々が出席され開催されました。

20日夜、懇親会。21日、神崎日本山岳協会海外委員長から海外常任委員会で時間がなく詳しく説明出来ない事に付いて話があり、出席者の考えを聞きたいと言うことで、懇親会での話題も含めて素直な話し合いが行われました。
1991年10月16日～20日 東京 スポーツクライミング・ワールドカップ(国際大会)
1991年11月9日～10日

東京 ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト(略称 HAT-TJ) (自然保護国際シンポジウム)

1992年10月~11月の間の2日間 国際山岳連盟(U I A A) 理事会・総会(国際会議)

海外から日本の山に対する登山資料の問い合わせに、現在詳しく返答できないとの事でした。ファクシミリ等で、登山ルート、交通機関、宿泊施設など返答出来るようにすべきだとの意見が多く有りました。

自然保護活動に付いて、関係四団体(日本山岳会、日本勤労者山岳連盟、日本ヒマラヤ協会、日本山岳協会)と連絡を密にし、協調して行きたいとの事でした。

国際化に伴い、現在の委員会では広範囲な課題に対応しにくいので国際関係、競技関係等に細分化し、各分野が活動し易いように調整役を行って、たほうが良いのではないかとの事でした。

登山、語学力に通じた人材不足をあげられていました。

大岳スキー登山

新潟鉄工山の会

石田 邦雄

3月半ばともなれば、麓の雪融けは進み春の気配が漂う。なかなか姿を見せなかった越後平野を取り巻く高い山々も、時折の好天で青空の中に純白の姿を浮かべせる。こんな光景を目にすると、たちまち心は雪山に縦横にシュプールを描く姿に思いは逸る。そんな我々に、手近で絶好のフィールドを提供してくれるのが守門岳周辺である。コースとしては色々なルートを取れるが、今回はあまり人に知られていない、10kmにおよぶ滑降を楽しめる入塩川↓大岳のコースを登る事にした。

- コースタイム
- 巻6時25分―三条6時50分―入塩川7時35分―8時00分―堰堤9時8分―稜線6400m
- 10時00分―滝上の三角点10時25分―10時40分―8266m
- 11時7分―9700m
- 11時40分―11時50分―12220m
- 12時15分―頂上直下12時50分―13時10分―往路を下降―堰堤15時5分―入塩川15時40分



標高1200mブナ林終了地帯

3月21日春分の日、自宅を早朝出発、雨は降っていないものの曇天で道路は濡れている。途中三条で職場の先輩と合流し、五十嵐川沿いに車を走らせる。越後長沢附近から田んぼに残雪が始め、八木鼻手前で右折して梨の木トンネルを抜けて栃尾市へ入ると、一面60~70cmの雪で季節が戻ったような感じである。入塩川は入塩川―大岳コースの夏道の起点であり、4km先の堰堤までは林道が続いており、無雪期ならば車で行けるが、今は1m以上の雪で覆れている。部落の外れから歩きと思いが、工事の関係で1km先まで除雪してあり、車を入れることが出来た。

塩谷川に沿った殆ど傾斜のない林道をスキーを進める。屋根の先端が出ている佐万小屋を過ぎ、約1時間で堰堤に到着した。ここは上に積った雪で渡るのが難渋する所であるが、今日は10m程上が雪橋となっており、左岸ぞいにトラバースして右岸へ渡る。標高3700m、ここから滝上の三角点710mまでは塩谷川源流の沢に沿う概ね緩やかな登りとなる。下部は狭い谷の斜面を巻いて行くが、雪の少ない年は4月に入ると沢が割れてしまい、渡渉に苦労する。沢が左に屈曲した地点は左岸が急斜面となっており、毎年デブリが出ており注意を要する場所であり、今年もかなり大きなデブリが発生していた。そこを抜けると開けた沢となり、堰堤から約1時間20分で大岳から北西に派出する尾根上にある滝上の三角点に到着する。晴れていれば北方には残雪豊かな粟ヶ岳が望め、大休止をするに格好の場所であるが、今日は小雪が舞い展望は効かない。

ここからは小さなアップダウンを交えた緩やかな尾根歩きとなる。30分程で杉の造林地となり、吉ヶ平からの廃道接続点となる。造林地を抜けるとブナ林となり、枝には霧水が付き美しい。少し傾斜が増し、いよいよ主稜線へ取りつく。このコースの9500mから12000mまでのブナ林のスロープは斜度も適当で幅も広く、守門岳周辺でも最高のスロープではないかと思う。傾斜が緩くなり12時15分主稜線に到着、標高約12200m、ここからは稜線歩きとなり、左側(東側)に張り出す雪庇とクラストした斜面に気を使いながらの登高となる。深谷ノカツチ、中津又岳を越え大岳まではあとわずかではあったが、ガスが濃くなりホワイトアウトで危険なため、本日はここで断念する。

重い、それでも程良いスピードで約40分で堰堤に到着。フィナーレは林道滑走、天候も漸く回復し青空が覗く。ストックで漕ぐ部分もあったが比較的良く滑る。途中でフェキノトウを採ったりしながら、快い疲労感に満ち足りた気分

で車に戻る。
このコースは長いだけに体力を要するが、それに見合った充実感を味わえるコースである。

中高年登山教室

9月8日

平標山近辺で

県山協中高年登山委員会（坂井厚委員長）では、県体協、県教委、新潟市教委、同中央公民館などの後援で左記により登山教室を開催する。

記

期日 9月8日

会場 平標山近辺

日程 新潟市陸上競技場入口

6時半出発（バス）11平標

山1120時帰着

人員 150名、バス3台

担当 坂井厚、中村武雄、加藤記代子

協力 新潟峡彩、むささび、

楽山、越後ハイ

対象 新潟市附近に住む40才以上の人
問合 坂井厚
☎0250(62)6647

山岳協会ニュース

加茂山岳会

横山 克成

加茂山岳会も最近中年女性の入会がありまして会員も48名になりました。

山行も毎月計画して会員で登っており。6月は山形県の摩耶山、7月は加茂市総合体育大会山岳大会で一泊二日で秋田山形県境の鳥海山を主管しました。

6月から9月にかけては粟ヶ岳登山道の整備載列です。6月9日は会員多く参加して登山道の土嚢を積んで水の流れを変える作業をしました。

各資格所有者の

会費一括納入制実施

県山協加盟団体に所属する

会員で指導員(3000円)、

国体審判員(2000円)、

自然保護、自然公園指導員

(2000円)の資格所有者

は、これまではそれぞれの委

員会に上記の会費を納入して

いたが、本年度から一括納入

していただくことにした。これらの資格は、加盟団体の推薦によって資格を収得している経緯があるので、加盟団体が集金して一括納入することとした。

すでに、納付明細書は加盟団体に送付してあるので協力していただきたい。

また、当該団体が県山協に非加盟となれば所属会員のそれらの資格は自動的に消滅するものである。(理事長)

登山技術講習会

終了

県山協技術委員会（阿部信一委員長）担当で6月23日新発田市の杉滝岩で行われた。前夜祭及び当日の参加者次の通り。記帳者のみ。

（講師及び助手）阿部信一、

安野正弘、五十嵐博、牧野信

夫、橋本寅信、堀口寿彦、金

子恒夫、小島修、渡部信栄、

太子孝

（受講者）堀昌明、遠藤有香、

佐藤安男、佐藤なつえ、渡辺

国生、コノムラタカシ、関根

正純、成田護、藤井秀人、諸

橋紳一、長沼毅、五十嵐成一、

藍原清、金沢和男、加藤いず

み、堀高子、真島良典、斉藤

明美、山崎淳子、杉浦広幸、佐藤孝栄、森田健、早坂伸二、明間幸

新事務局長に

田邊信行氏

1991年度から県山協事務局長に下越山岳会の田邊信行氏に、またアシスタントとしてOA機器操作のエキスパ

ートで、同会の五十嵐昇氏にお願いした。事務引継を終えてみて、十数年もつづけてこられた杉本敏前事務局長の多大なご苦労をはじめ知りお

どろいたり、深く感謝したりした。厚くお礼申しあげる次第である。(理事長)

小国町(山形)に

人工岩場

1992年国体山岳競技の開催地である山形県小国町の

体育館に人工岩場が出来た。

体育館のトレーニングルーム

の5m程の垂直の壁面にボ

ードを張りつけたもので、所々

に大小のホールドやスタンス

がとりつけられていて、難

易、吊りあげ、の三ルートが

ある。ホールド等は、「釘師」が適当に調節できるようになっている。ちなみに、第12回信越国体の登攀会場は建設業者がパイプを組んでボードを張りつけた高さ10mの上部が逆傾斜している人工岩場だった。成人男子ルートは、「釘師」の調節がきびしく5チーム中成功は2チーム。山形国体の本番は天然岩場で、体育館のものはあくまでも町の練習用である。新潟県からも遊びにくらしい。使用料一人1000円。(平田大六)

後記

前号74号から半年もおくれてしまいました。すみません。(平田大六)

登山用品専門店

信頼できるパートナー

大新スポーツ

新潟市東堀6 ☎(025)222-3736